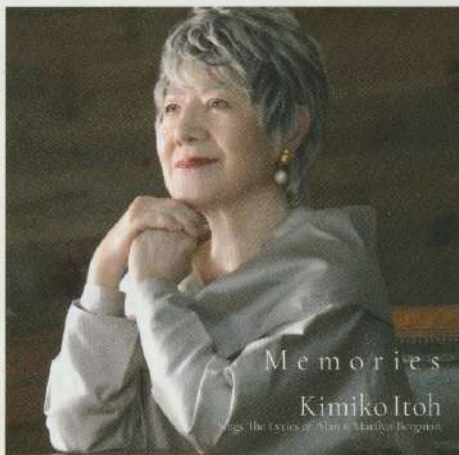


ジャズ・ヴォーカルの第一人者、伊藤君子の  
記念すべき20枚目のアルバムは  
彼女がこよなく愛し、長いキャリアを通して  
歌い続けてきた作詞家コンビ、  
アラン&マリリン・バーグマン夫妻の作品集。

# Memories Kimiko Itoh

Sings The Lyrics of Alan & Marilyn Bergman

ミシェル・ルグランを始めとする名だたる作曲家の作品に提供された詞の数々を  
時には語りかけるように、時には力強く包み込むように、多彩な表現力で歌い上げた渾身の作品。  
日本の音楽シーンの第一線で活躍する林正樹(ピアノ)、須川崇志(ベース)、後藤浩二(ピアノ)に加え、  
盟友スティーヴ・ガッドも新録曲3曲に特別参加、ワン・アンド・オンリーの演奏で作品に見事なカラーを加えている。  
今作品には1995年にNYで録音された最高傑作「ソフィスティケイテッド・レディ」に収録の  
バーグマン夫妻の作詞による3曲を収録。全10曲、伊藤 潔プロデュースによる録音作品。



01. The Way We Were (Music by Marvin Hamlisch) 追憶
02. Like A Lover (Music by Dorival Caymmi) ライク・ア・ラヴァー
03. How Do You Keep The Music Playing? (Music by Michel Legrand)  
ハウ・ドゥ・ユー・キープ・ザ・ミュージック・プレイング
04. The Island (Music by Ivan Lins) ジ・アイランド
05. Alone In The World (Music by Jerry Goldsmith) アローン・イン・ザ・ワールド
06. The Windmills Of Your Mind (Music by Michel Legrand) 風のささやき
07. It Might Be You (Music by Dave Grusin) イット・マイト・ビー・ユー
08. What Are You Doing The Rest Of Your Life? (Music by Michel Legrand) これからの人生
09. You Must Believe In Spring (Music by Michel Legrand) ユー・マスト・ビリーブ・イン・スプリング
10. So Many Stars (Music by Sergio Mendes) ソー・メニー・スターズ

All the Lyrics by Alan & Marilyn Bergman

伊藤君子(vo)

- ① Track 1, 3, 6: 林正樹(p/arr.), 須川崇志(b), スティーヴ・ガッド(ds) ② Track 2, 4, 7, 9: 後藤浩二(p/arr.)  
③ Track 5, 8, 10 (from "Sophisticated Lady"): 野力奏一(p/key/arr.), Will Lee(b), Eddie Gomez(b), Steve Gadd(ds),  
John Tropea(g), Ralph MacDonald(perc), Michael Brecker(ts solo on #5) 他

- ①② Recorded at Pony Canyon Yoyogi Studio, Tokyo in Oct. & Nov. 2024  
③ Recorded at Clinton Recording Studios, New York in August. 1995

**伊藤君子 | メモリーズ**  
～シングス・ザ・リリックス・オブ・アラン&マリリン・バーグマン  
**2025年4月23日 CD発売**  
Pony Canyon Inc. PCCY-01997 ¥3,000(本体¥2,727)

CD販売用リンク





## 伊藤君子 Profile

香川県小豆島生まれ。4歳の時、ラジオから流れる美空ひばりの歌声に魅せられ、歌手を目指す。

1982年、アルバム「バードランド (THE BIRDLAND)」でレコード・デビュー。これまで19枚のアルバムを発売、数々の受賞歴に輝く日本を代表するジャズ・シンガー。活動の場は日本にとどまらず海外にも及ぶ。1989年にはソニー・ミュージックから発売されたアルバム「フォロー・ミー」(FOLLOW ME)がアメリカの「ラジオ&レコード誌」で16位にチャートインするという日本人初の快挙を成し遂げている。1997年には小曽根真とのデュオでスイスの「モントレー・ジャズ・フェスティバル」(ライブが発売中)に出演、2004年には小曽根真をプロデューサーに迎え、ビッグ・バンド(ノー・ネーム・ホーセズ)との共演アルバム「一度恋をしたら」を発表、同年には、押井守監督の映画『イノセンス』の挿入歌に「フォロー・ミー」が採用され、映画用に新たに録音が行われた。2007年には津軽弁でジャズを歌った「津軽弁ジャズ〜ジャズだが? ジャズじゃ!」を発表(2015年に第2弾アルバムを発売)した。

ライブ活動では、パリ、ローマ、セネガルの各国をはじめ、その他のヨーロッパ、アジア諸国で公演を行なうなど、新しい挑戦を続けて来た。2017年5月には歌手への道を選ぶキッカケとなった美空ひばりへのトリビュート盤「Kimiko Itoh sings HIBARI〜伊藤君子、ひばりを歌う」を日本コロムビアより発売した。近年も精力的な演奏活動と共に、後進の指導にも時間を割くなど、日本のジャズ・ヴォーカルの「至宝」としてその存在感は増すばかりである。



アンシエイト・プロデューサー 海老根久夫 解説抜粋

「これが最後かなあ…」。この企画が動き出した時に伊藤君子が口にした言葉です。年齢を重ねる事から派生する体の衰えは誰もが経験する事ですが、身体そのものが楽器でもある歌手。人一倍の鍛錬と節制を続けている姿を目にしなが  
一緒に仕事をしてきた年月を思うと、「最後…」云々はさて置き、  
「いま考え得る彼女にとつての最良の作品は何なのだろう…」を考えながら準備を始めました。